

※すべてのイベントの事前申込は不要です（当日先着順）

講演

手話・要約あり

8月16日(日) (開場 10:00) 10:30~12:30

小ホール

定員:250名

### 多摩市平和展連続講演(第13回)

## 1945年8月「空白の2週間」を探る～戦争と占領の間～

1945年8月15日の玉音放送から同月28日の連合国軍による占領開始までを「空白の2週間」と呼びます。この期間に何が起こり、行われたか。今年も山田先生の詳しくて分かりやすく、しかも高度な内容の講演が聴けます。毎年ご好評をいただいておりますが、これまで会議室1では満員札止めとなり、会場に入れない方が2年続けて出てしまいました。そのため、今年からは小ホールを会場として開催いたします。



やまだ あきら  
山田 朗 さん

明治大学文学部教授・  
明治大学平和教育  
登戸研究所資料館館長



上映・講演

8月16日(日) (開場 13:30) 14:00~16:40

小ホール

定員:250名

① オープニングイベント 14:00 ~ 14:10 手話・要約あり

② ドキュメンタリー上映 14:10 ~ 15:00 ③ 講演 15:10 ~ 16:40 手話・要約あり

## 戦争が人間にもたらす深く長い影と傷～復員日本兵、その家族とPTSD～

戦争は終わった後もずっと、関わった人々の心に大きな傷を与えます。黒井秋夫さんは、日本兵だった父親がPTSD(心的外傷後ストレス障害)だったことに気づき、そのことの意味を考える活動を始めました。黒井さんを追ったドキュメンタリーの上映と、黒井さんの講演を実施します。黒井さんの活動に関する紹介を展示予定です。

講演

くろい あきお  
黒井秋夫 さん

1948年山形県生まれ。2018年に「PTSDの復員日本兵と暮らした家族が語り合う会」を設立。'20年には、東京都武蔵村山市の自宅敷地に復員兵問題や戦争に関する資料を集めた「PTSD日本兵と家族の交流館」('23年に会の名称を「PTSDの日本兵家族会・寄り添う市民の会」に改称)を開設。

上映

『でくのぼう～戦争とPTSD』



ドキュメンタリー作品  
山形放送 2023年  
ディレクター・撮影：伊藤翼



上映・トーク

8月21日(金) (開場 13:30) 14:00~16:00

小ホール

定員:250名

映画字幕あり

トーク手話・要約あり

## 『ぼくは風船爆弾』上映とトークショー

高橋光子原作「ぼくは風船爆弾」の映画化。戦争末期、「ぼくと君」と名付けられた風船爆弾の目を通して女学生たちの日々と葛藤、兵器が戦争の道具として送り出される姿をアニメと実写で静かに見つめる80分。親子3代で受け継ぎたい作品です。上映後は松村監督と出演者のトークショーもあります。

主な出演:

山口勝平(風船爆弾の声)/松藤百香/パックン  
塙宣之/柴田理恵/城之内正明/結城こと乃

テーマ音楽:「ババちゃんたちは伝えます」

作詞:海老名香葉子 作曲:田中和音

©2025 Kムーブ



まつむらかつや  
松村克弥 監督



じょうの うちまさあき  
城之内正明 さん



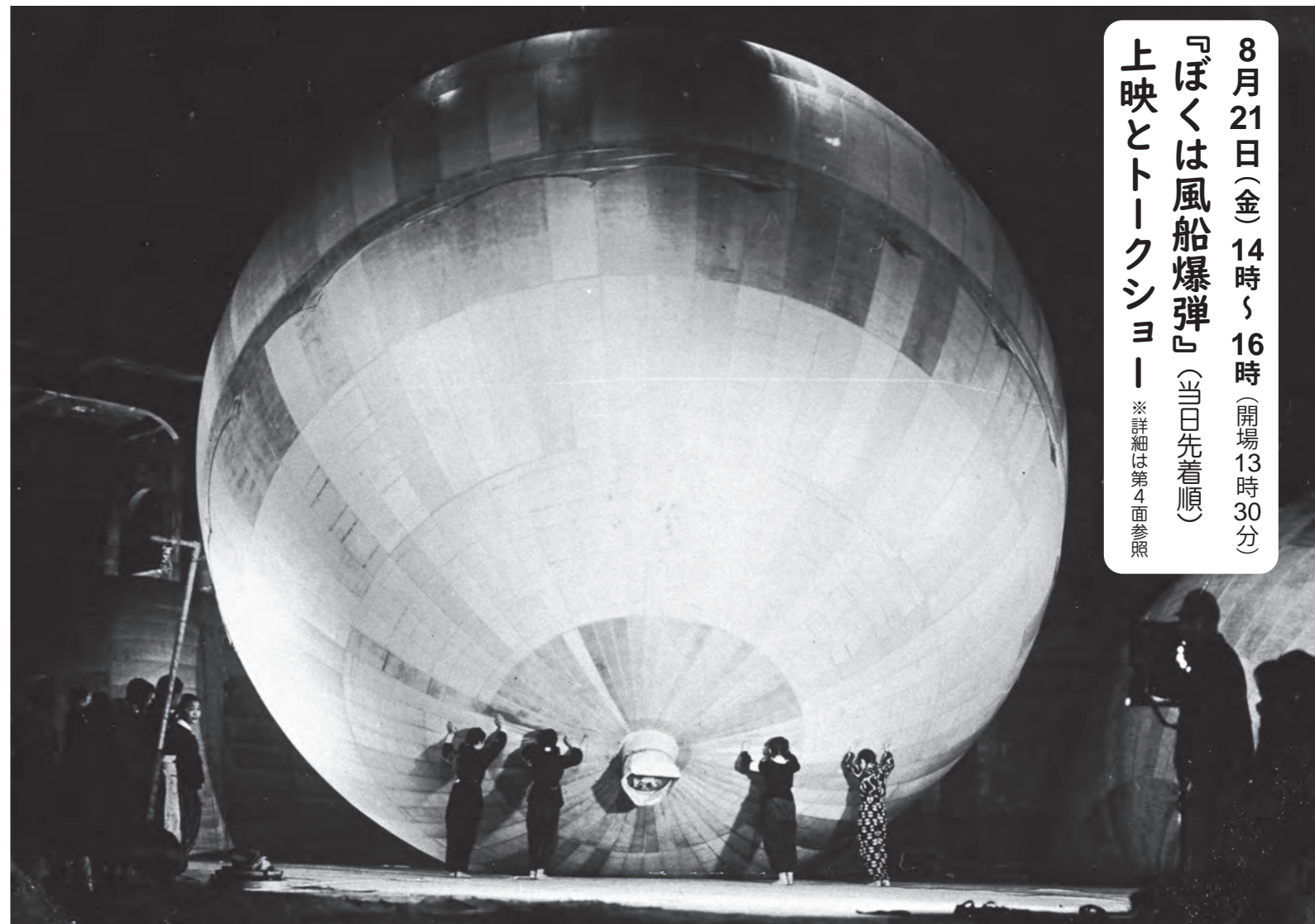
# 第35回多摩市平和展

— すべてのいのちに平和な地球を —

2026年8月16日(日) – 8月23日(日) 10:00 ~ 18:00

パルテノン多摩 入場無料・申込不要(会期中は無休)

## 今の世界は怖いですか あなたの声が平和をつくる



8月21日(金) 14時 ~ 16時 (開場 13時30分)  
『ぼくは風船爆弾』(当日先着順)  
上映とトークショー ※詳細は第4面参照

「風船爆弾 気密度検査(満球テスト)」記録作家林えいだい記念ありらん文庫資料室所蔵 明治大学平和教育登戸研究所資料館提供

風船爆弾とは、旧日本陸軍が戦争の勝敗を決する「決戦兵器」と位置付け、1944～1945年に開発・製造された兵器です。直径約10mの気球に爆弾を搭載し、偏西風に乗せて、日本各地から約9,300発がアメリカ本土へ向けて放たれました。その製造には学徒動員によって集められた全国の女学生たちが深く関わっていました。

オープニングイベント 8月16日(日) (開場 13:30) 14:00 ~ 16:40 小ホール ※詳細は第4面参照

① オープニングイベント 14:00 ~ 14:10 ② ドキュメンタリー上映 14:10 ~ 15:00 ③ 講演 15:10 ~ 16:40

## 戦争が人間にもたらす深く長い影と傷～復員日本兵、その家族とPTSD～

主催:多摩市平和展市民会議/多摩市 後援:公益財団法人 多摩市文化振興財団

多摩市公式ホームページ

広報ID 1011812

問い合わせ先:多摩市くらしと文化部 平和・人権課 (TEL: 042-376-8311 / FAX: 042-339-0491)

https://www.city.tama.lg.jp



市民ギャラリー / オープンスタジオ

市民ギャラリー

展示 1944～45年に決戦兵器として開発・製造された「風船爆弾」の歴史の背後には、動員された多くの女学生たちの存在があります。2つの展示は、それぞれ異なる角度から、このテーマに向き合います。

映画「ぼくは風船爆弾」原作者・出演者が語る戦争の残酷さと平和への想い

映画「ぼくは風船爆弾」の上映にあわせて、映画に出演した俳優や、実際に風船爆弾の製造に動員された経験をもつ原作者・高橋光子さんの平和への想いを、インタビュー記事を通して伝えます。(出典：月刊パンプキン 2025年8月号)



明治大学平和教育登戸研究所資料館企画展「風船爆弾作戦と本土決戦準備—女の子たちの戦争—」

旧日本陸軍の秘密戦研究を担っていた第九陸軍技術研究所の跡地に建つ、明治大学平和教育登戸研究所資料館。過去に開催された企画展のパネルを借用し、「風船爆弾」とは何だったのか、そして女学生動員の实態について紹介します。

市民ギャラリー

展示 広島基町高校の生徒と被爆体験証言者との共同制作による「原爆の絵」

被爆者と高校生との共同制作が生み出した作品の数々です。戦争体験の継承として結実し見る人に平和への強い願いを伝えます。「背負われて」作/児玉紗世 所蔵/広島平和記念資料館



お話し 広島基町高校卒業生が語る「原爆の絵」と平和への想い

8月20日(木) (開場11:00) 11:30~12:30 (開場13:30) 14:00~15:00

「原爆の絵」を描いた広島基町高校の卒業生が、取組の紹介や制作エピソードとともに、自らの思いを語ります。若い世代がどのように被爆の記憶を受け継ぎ、平和について考え、発信しているのかをご紹介します。

オープンスタジオ

オープンスタジオ

報告・お話し 8月17日(月) 14:30~15:40 (開場 14:15) 高校生による平和学習の報告と平和絵本のお話会

都立永山高等学校の生徒が、修学旅行先「沖縄」での平和学習や、国際交流を通じた平和学習を報告し、「平和」をテーマにした絵本などを読みます。今年度もさまざまな角度から平和につながるお話を選びました。

展示 高校生から平和へのメッセージ ~沖縄への修学旅行から~

都立永山高等学校3年生は昨年、平和学習の一環として沖縄に修学旅行に行きました。沖縄戦で県土の9割が破壊された住民の惨劇、悲惨さを知りました。平和の大切さを作文を通して皆さんに伝えます。



「ひめゆりの塔」前にて

オープンスタジオ

オープンスタジオ

展示 明星大学熊本ゼミ成果報告パネル

明星大学人文学部人間社会学科・熊本ゼミ3年生の成果報告パネル。5月の沖縄研修を経て、明星高校1年生向けに実施したワークショップを紹介します。



昨年度の沖縄研修の様子

展示 令和7年度派遣事業成果報告 作文・活動アルバム

令和7年度に多摩市子ども被爆地(広島)派遣事業に参加した市内小中学生8名の作文と活動アルバムを展示します。



令和7年度 子ども被爆地派遣の様子

市民ギャラリー

オープンスタジオ

若い人たちへの伝言 ~語り継ぐ戦争体験

(開場 12:30) 各回 13:00~14:00

8月17日(月) 「戦争で両親を亡くし孤児となった経験」 武田昭 さん

8月18日(火) 「多摩市周辺の戦争体験」 朝倉美佐子 さん

8月19日(水) 「父から聞いたソ連抑留の体験」 松村義和 さん

オープンスタジオ

平和関連の絵本などの展示とミニお話し会

8月18日(火)、8月19日(水) (開場14:15) 14:30~15:00



世界の紛争・核・憲法・戦時下の子どもをテーマに、またテーマに関係なく、ここ1・2年に出版された書籍も選んでみました。ミニお話し会は「語り継ぐ戦争体験」の終了後に行います。

オープンスタジオ

講座 8月22日(土) (開場 10:00) 10:30~12:30 紛争地での挑戦

アクセプト・インターナショナルは、テロ組織の投降兵などの紛争に巻き込まれた若者に対し、対話や職業訓練を通じて社会復帰(脱過激化)を支援する日本の認定NPO法人です。終わらないテロや紛争の背景にある憎しみの連鎖をほどこいていく挑戦を紹介します。



講師: 山崎琢磨 さん (認定NPO法人アクセプト・インターナショナル コミュニケーション局長) ※写真: 2021年8月ソマリア首都モガディシュにて

展示 特別パネル 「武力ではなく平和的なアプローチで日本から平和の実現を目指す」



ソマリアにて地域コミュニティ向けの建設作業に参画する元戦闘員(2024年)

オープンスタジオ

講座 8月22日(土) (開場 14:30) 15:00~17:00 朝鮮戦争と多摩周辺の米軍基地 ~多摩弾薬庫を中心に~

敗戦で多摩火工廠が接収され、米軍の多摩弾薬庫となりました。1950年に始まった朝鮮戦争では、占領下の日本にいた米軍が主力部隊として戦ったため、多摩弾薬庫を含む米軍基地が戦争を直接支えました。当時どんな状況だったのか、みなさんと考えてみたいと思います。



講師: 神子島健 さん (東京工科大学教授)

展示 多摩火工廠とその後の変遷

かつて稲城市と多摩市にまたがって旧日本陸軍の火薬工場があり、その後は「米軍多摩弾薬庫」、現在は「米軍多摩サービス補助施設」となっています。その90年近くに及ぶ歴史と経緯が一望できます。新たな展示物を出品予定!



2025年の本展示コーナー風景

オープンスタジオ

報告会 8月23日(日) (開場 13:30) 14:00~16:30

令和8年度多摩市子ども被爆地(長崎)派遣成果報告会

派遣員自らの言葉で被爆地「長崎」を通じて学んだ平和への想いを伝えます。長崎出身のシンガーソングライターカツルミさんによる歌と平和へのメッセージもあります。

こちらをご利用ください▶

DVD上映コーナー

千羽鶴作成コーナー

近現代史年表展示